

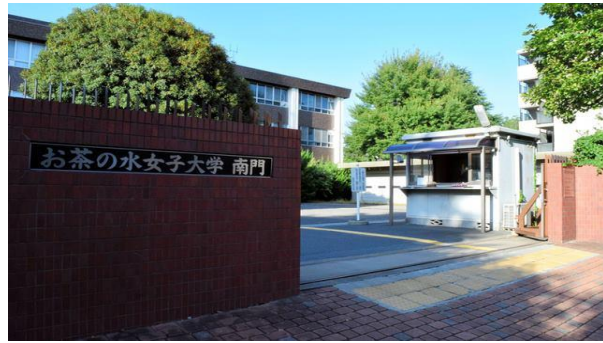
交換留学生としてお茶の水女子大学での体験

グエン・ホン・ゴック (ベトナム・ハノイ大学)

私はベトナムから参りましたグエン・ホン・ゴックと申します。2015年4月、交換留学生としてお茶の水女子大学に入りました。

3ヶ月前、2015年4月1日、両親は空港まで送ってくれて、私は一人でウェイティングルームでしゃくり上げながら泣いていました。まさにこの時、これから様々な面白いことがあり、また打ち勝たなければならないこともあると感じていました。

1週間、2週間、1ヶ月、3ヶ月…早いと言えば早いですが、遅いと言えば遅いです。ここで夢にも思わなかったことを体験することができ、日本に留学でき、お茶の水女子大学に入れたのはどんなに素敵か言葉で表現できないと思います。

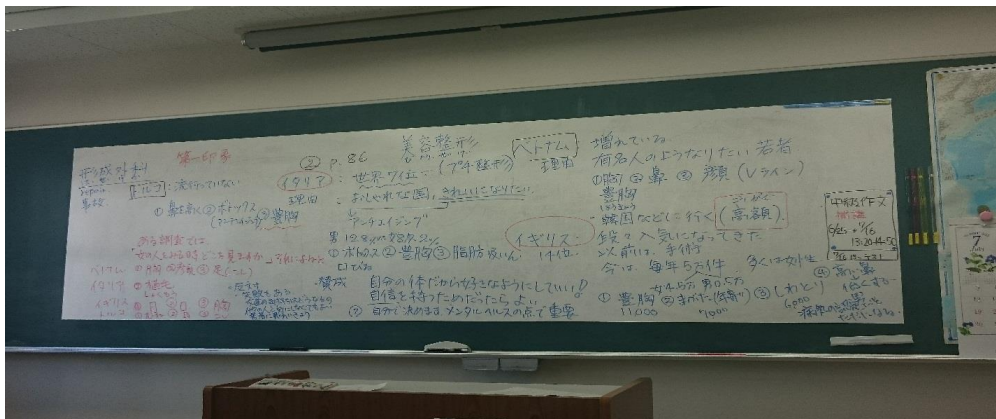


4月、好奇心をもって、わくわくして日本についての新しいことを学び始めました。日本の料理を食べて、色々な場所を見物しました。何もかも素敵で、素晴らしいと思いました。その時、私はもしここにずっと暮らすことができたなら、何よりも嬉しいことだろうと思いました。また、この1ヶ月で様々な初めてのことを体験しました。初めて家族と離れて、一人暮らしの生活をする、初めて自分で区役所に行って、法律に関する手続きをすること、初めて自分で家具を買うこと、初めて自炊することなどです。ようやく箱入り娘の私は自立の生活を始めました。



5月、だんだん日本での生活になれてきました。最初友達ができ、その後、友達も少しずつ増えました。同じ交換留学生の友達だけでなく、日本人の友達もいます。一緒に学校に行ったり、遊んだり、女子会を行ったり、自分の国の料理を作ったりしました。皆との生活はまるで

家族と一緒にいるようで、ホームシックが治りました。その一方で、この月、言語に関する問題に直面しました。ベトナムで勉強したとき、「私の日本語はこの程度で問題ない。日本人と話しても大丈夫。」と書いていました。しかし、ここに来て、問題がないわけではないと分かってきました。他の交換留学生在がペラペラ日本語を話すのを見て、毎日実際に日本人とコミュニケーションしてみて、引け目を感じました。この気持ちを誰に話せば良いのか分かりませんでした。はっきりとは言いませんでしたが、恐らく先生方が私の引け目を感じてくださったのか、授業の時や放課後の時に、会話練習の機会を与えてくださり、アドバイスもいただきました。



チューターもたくさん手伝ってくれました。就職活動で忙しいにも関わらず、時間を割いて、私と会話の練習をしてくれました。心から彼女たちに感謝を言いたいです。おかげさまで、引け目を感じなくなり、自信が少しずつ戻ってきました。この5月の気持ちは嬉しいような苦しいような気持ちでうまく表現できません。複雑な気持ちの1か月でした。

6月に入る頃になって、日本での生活、お茶大での勉強に本当に慣れたと言えると思います。そこでアルバイトの仕事を探し始めました。あれこれ考えて、結局、7月に、大山寮の近くのスーパーでレジ係としてアルバイトを始めました。スーパーで働いてはじめて、日本人の思いやりを実感しました。商品の陳列から、接客用語、お金の返し方まで、何でもお客様の立場から考えて、一番完璧なサービスを提供します。日本人とコミュニケーションでき、日本の文化の一面に触れることができます。アルバイトも良い体験だと思います。

楽しい時間はいつも早く過ぎます。日本に来て、東京で暮らして、お茶の水女子大学で勉強して、もう4ヶ月経ちました。私はあと半年ぐらいしかここに居ません。しかし、勉強したいこと、体験したいことはまだまだたくさんあります。これから、もっと積極的に勉強し、もっと積極的に色々な活動に参加すべきだと思います。楽しくて、意義がある1年間の留学生生活を過ごしたいと思います。